「目指す道を見据えて」マルコによる福音書10章32節～34節

　3月に入って、気候も春めいて参りました。これから、気持ちの良い季節を迎えるのですが、わたし達キリスト教会はその前に、イエス・キリストの十字架を思い起こすとき、受難節を迎えます。この受難節が今年は3月2日から4月14日(木)までつづくことになります。

　この時期の習慣として、結婚式のようなお祝い事を控えるとか、自分の欲しいものや食べたいものがあっても我慢するとか、そんな時だと言われてきました。もっとも、今年は3年越しの新型コロナウイルスの感染拡大や、ロシアのウクライナ侵攻とか、考えるだけで気持ちが落ち込みそうな事ばかりです。新型コロナウイルスの方は、悪いのはウイルスでこちらとしては、感染予防に力を尽くすだけで後はどうにも出来ないことで、わたし達が無力感を感じたとしても、責任や罪悪感を負うことは無いのですが。

　ウクライナとロシアの問題は、大国のエゴというか人間の罪の問題がそのまま顕わにされたかのようです。とくに、こうした戦争の場合には何時も弱い立場の者が最も辛い思いをすると言うことです。戦争さえ無ければという言葉は何度となく聞かされた言葉です。その言葉をまたわたし達が聞かなければならないという、本当に辛い出来事が今起こっていると言うことは忘れてはならないと思います。

　戦争が、最も弱いところに傷跡を残す。ということは、この3月の卒園を控えた時期にわたし自身の体験として、消すことの出来ないことです。今から、15年も前になるのですが、イラクへ陸上自衛隊が派遣されたことを覚えているかもいらっしゃると思います。あのとき、自衛隊が紛争地帯へ派遣されるのは始めてということで、とても話題になったのですが。その時に、派遣されたのがわたしが以前いた名寄の自衛隊だったのです。

　派遣前、1月2月零下20度を下回るような厳寒の中、装甲車が町中を走っていたのを思い出します。そして、その派遣の日が3月24日で幼稚園の卒園式の日だったんです。名寄の幼稚園というのは半分くらい自衛隊の家庭なんです。クラスの半分近くが自衛隊員の子どもというのも珍しくありません。だから、イラク派遣の見送りに行かなければならないから、卒園式に出られない子どもが、卒園児の半分くらいを占めたんです。それで仕方ないので、自衛隊の家の子どもだけ、特別に一週間早く卒園式を行って送り出したのを覚えています。

　もちろん子ども達は、他のみんなと一緒に卒園したかったに違いありません。でも、もしかしたら生きて帰ってくることが出来ないかも知れないお父さんを見送るために、派遣の出発式に出かけなければならない、そんな辛い思いを子どもに強いるのが、戦争なんだと思います。そして今回の戦争でも、何の責任も無い子ども達がそれこそ、着の身着のままで戦禍から逃げなければならない、そんな経験をしていると思うと、それはやはりそんな世界にしてしまったわたし達大人の罪の故なんだと思います。

　そして、その罪こそ自分の力を信じ、その力によって他者を支配して、その自由を奪ってもよいという強者の論理の他ならないのだと思います。そんな強者の論理がまかり通る世界に、イエス様は福音を語りそのためにまた、苦しまれたのです。

　さて、今日の聖書の箇所はイエス様がエルサレムへ向けて歩みを進めているその途上の出来事が記されています。その一行の様子として、イエス様が「先頭に立って進んで行かれたのを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた」とあります。ここでわたし達が気にしなければいけないのは、どうして、弟子たちや従う者たちは驚き、恐れなければならなかったかと言うことです。そしてその肝になるのは、イエス様がここまで2回御自身の死と復活の話をされていると言うことです。

　イエス様はその教えの中で当時の宗教的エリートのファリサイ派や、神殿貴族といわれたサドカイ派を批判し、当の相手はイエス様を殺す相談を始めるという事態に発展していました。こんな雰囲気が弟子たちに伝わっていないはずは無いと思います。おそらく、これから敵の本拠地とも言えるエルサレムへ乗り込んでいくイエス様一行は、意気揚々でもあったでしょうし、それだけにまたイエス様をお守りしなければならない。と言う思いもひとしおだったのです。

　だから、本来ならばイエス様を先頭に立たせるのでは無く、集団の真ん中くらいにおいて周りを弟子たちで固める。というのが最も安全な方法だったはずです。そしておそらく弟子たちはそうしたかったのでしょう。しかし、ここでは弟子たちのそんな思いを無視するかのようにイエス様は目立つ先頭に立って歩かれたのです。

　そんな常識外れの行動に出たイエス様に弟子たち、そして従う者たちが驚き恐れたのは、イエス様の力強さとまた何処から飛んでくるかも分からない敵からの攻撃だったのです。弟子たちがそんな状況の中でイエス様の命のことを心配しても不思議では無いと思います。

　そんな弟子たちにこれから御自身の身の上に起ころうとすることを話されたは、今はまだその時が来ていないこと、しかし、またあなたたちのその心配は現実となること、しかし、その現実の前であなたたちは力無く立ちすくんでしまうのでは無く、その現実の先にある復活、信仰が愛によって働くそんな人生の道をキリスト共に歩む、そんな現実へと変えられていくんだとそう伝えているのです。

　イエス様がエルサレムに入るとすぐに神の国が実現すると考えていた者があることも、次のヤコブとヨハネの願いを読むと分かります。この二人はイエス様が無事にエルサレムへ入り、神の国を打ち立てたならその中で、右大臣、左大臣のような地位を下さいとイエス様にお願いをしています。弟子達は、都合3回もイエス様から御自身の受難と復活の予告を聞きながらも、少しもそのことが理解出来ていませんでした。その意味が全然分かっていなかったのです。予告の意味が分からなかっただけではありません。イエス様が捕らえられ、十字架に掛けられてもまだそのことが理解出来ませんでした。

　弟子たちがそしてわたし達がどうしても理解出来ないのが、神と共にその栄光の中にあるはずの御子を、神は汚れた人間の世界に送り込み、この御子を十字架に掛けられて、わたし達人間の罪の贖いを完了されたことです。これこそが本当の奇跡です。わたし達人間の罪は、積み重なり深まるばかりです。しかし、どんな大きな罪も神の子イエス・キリストの十字架の出来事以上に大きな罪はありません。そしてそれを成し遂げられたくらい大きな愛は存在しないのです。今世界が、どうにも収拾が困難な事態に巻き込まれていることは、皆さんお気づきのことだと思います。そしてそこでわたし達は自分の無力を知るのです。そのとき、自分の力や知識経験、それらを第一にしていてはそれを越える出来事に対処することは出来ません。

　でも、その時こんな罪深い者をも愛して下さる、その神の愛の大きさはこの世界の全てを越えて大きいことに気付くことが出来るのです。自分を最も小さくすることが出来る者こそ、最も大きな神の愛を知ることが出来るのです。名にも頼る物が無いからこそ、ただ神に頼るしか無いそんな小さな存在を神様はそのままにはされません。だからわたし達は何時も、絶望すること無く生きる事が出来るのです。

　罪に汚れ果てたわたし達を、これほどまで愛して下さったその愛の大きさに思いをはせるとき、わたし達の感謝はつきるところがありません。そんな神の愛を身にしみて覚えたわたし達は、その愛を持って全ての者を愛する者となることが求められています。そんなことはわたし達には不可能なことだと思ってしまうかも知れません。しかし、イエス様を愛するものは、その愛の実践を喜びとして行うことが出来るのです。「完全な信仰を持っていようとも、愛が無ければ全ては空しい」のです。愛の業の実践こそ、イエス・キリストの道であることは変わりありません。そしてその道が、自分の望む道で無かったとしても、わたし達はそのイエス様の歩まれた道を、イエス様がそうされたようにしっかりと見据えて、愛の道から外れることが無いように、そして今本当に愛の業を必要としている人達の下に、その働きが愛が届けられるように、そして虐げられている者、命の危機に瀕している者たちにこそ恵みと平安を、おごり高ぶる者に悔い改めとへりくだりをもとめて生きる、そんなわたし達でありたいと思いますし。神はそんな一人一人を必要とされていることをしっかりと好みに刻みながら生きていきたいと思います。

祈り

　愛する天の神よ御名を讃美いたします。

　3月の気持ちの良い朝、あなたによってここに集められ、敬愛する兄弟姉妹と共に、御名を讃美し礼拝を捧げることの出来る恵みを感謝いたします。神様、季節は春を迎え、明るい日差しと温かな空気に包まれてわたし達は過ごすことが出来ていますが、この世界をおもうとき本当に喜びを持ってこの季節を迎えることの出来ない、多くの人達がいることを思います。特に今、ウクライナではロシアとの戦闘の中で、明日をも知れない命の危険にさらされている多くの人達がいます。

　どうか、このような戦争が一日でも早く終わり、一人でも多くの人の命が守られますように。ほんとうにおなじ民族が殺し合うこのような愚かな行いが、続くことが無いようにして下さい。また、こんな事態を巻き起こしたのも、力でもって自分の都合の良いように、現状を変更しても善いというわたし達人間の罪の結果です。どうか、このような罪を私たち一人一人が悔い改め、自らの行いを正していくことが出来るようにして下さい。

　神様、ここに集うわたし達も、それぞれ思い悩みを抱えています。誰にも打ち明けることの出来ない痛みの中にいる者もあります。どうか、そんな誰にも知らせることの出来ないところに、あなたが触れて癒やして下さい。他の誰でも無いあなただけに望みを打ち明け、そして癒やされることが出来るように導いて下さい。

　そして、また新型コロナウイルスの感染も続いています。どうか私たち人類が、このウイルスと共に生きていく道を示して下さい。神経質になりすぎてそうで無いものを裁いてしまったり、また逆に心配している者を軽んじたりすることが無いように、互いに合理的な判断に従って感染症に対処していくことが出来るように知恵を与えて下さい。

　保育園や学校では卒園の時期です。新しい出発をする魂をさせて下さい。その行く末は決して平坦では無いかもしれません。でも、何時もあなたがいて下さり、その愛を持って支えていて下さることを教えて下さい。そんなに辛くても、その辛さ故にまたキリストの愛も大きく注がれることを、そしてそれだけ一人一人の存在が、神様にとってかけがえの無いことを知らしめて下さい。

そうして支えられて生きる人生こそ、最高の生涯であることを終わりの日には知らしめて下さい。

　今日も、様々な事情によりここに集うことの出来ない者もあります。どうか、そのお一人お一人がその場にあってあなたからの恵みを受けることが出来ますように。そして、何時も手を賛美する生活を続けることが出来るように支えて下さい。

　この日本の国も、大きくゆれ動く世界の中で、戦争への道を歩んでしまうことが無いように、二度とこの国から戦争のために命を失う者、不幸になる者を生み出すことが無いように守って下さい。そしてそのためにわたし達も祈りを欠かすこと無く、平和を求め続ける力を与えて下さい。

　どんなときでも平和の主であるあなたが共にいて下さり、わたし達の思いと、心を支えて下さいますように。

　この祈りを、一同の祈りと合わせて、愛する主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン